

食料環境経済研究特論 (2単位)

担当者氏名 寺内 光宏

◆学習・教育目標

自然環境は、われわれが日常生活や経済活動を営むうえで、資源や環境質といった様々な財・サービスを提供している。人類は、自然環境からの資源や環境質を利用し経済活動を行い、多くの諸国は経済発展を成し遂げた。第2次世界大戦後、わが国は、高度経済成長の下に大量生産・大量消費を通じ、物質的に豊かな生活を実現した。このような資源浪費型の社会経済構造は、今日、資源枯渇化や環境汚染といった深刻な問題を顕在化させている。こうした下で、環境に負荷を及ぼすことなく、資源の浪費を抑制し、廃棄物の再資源化を図り、「持続可能な社会」を実現する社会経済システムの構築が叫ばれている。本講義においては、こうした、持続可能な社会経済システムの構築に際して、現在、顕在化している諸問題に関して経済学的手法を用いて、理論的な背景を学習する。本講義は「持続可能な社会」の実現に向け前提条件となる、資源・環境の諸問題・諸課題に対して、経済学の観点から考える。本講義の到達目標は、①資源・環境問題の諸相。②資源・環境問題に対する経済学的理解。③資源・環境問題の解決に向け実施される公共政策の理論的背景等の3点の理論的理解の修得である。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

持続可能な成長 資源循環 リサイクル 環境利用
環境評価 農業・農村の公益的機能 再生可能エネルギー

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	食料環境経済学の領域	食料環境経済学の学問的領域	理論の理解をめざす。 配布資料を予習しておくこと
2	持続可能な社会	持続可能な社会の実現に向けた社会経済システム	
3	経済発展と環境問題	諸相、変遷とその対策	
4	環境問題と社会経済①	わが国の物質フローからみた資源循環	
5	環境問題と社会経済②	資源循環からみた再資源化	
6	環境汚染物質対策①	「排出者責任」と「拡大生産者責任」	
7	環境汚染物質対策②	処理とリサイクルに関する公共政策①	
8	環境汚染物質対策③	処理とリサイクルに関する公共政策②	
9	公共政策手法①	社会的手法の理論的背景	
10	公共政策手法②	経済的手法の理論的背景	
11	環境利用の適性水準	直接規制政策と経済的規制政策	
12	環境評価手法①	環境価値の構成と評価手法の展開	
13	環境評価手法②	「選好独立型評価」と「選好依存型評価法」	
14	環境効率性	環境効率性からみた持続可能性：推移と現状	
15	再生可能エネルギー	種類と利用状況資源	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

配布プリント

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

/ / ()

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

第15回授業終了時に「試験」を実施して評価（100%）を行う

◆その他受講上の注意事項